

優秀賞

命をつなげる

鹿児島県 鹿児島市立桜丘西小学校五年 山下 柚瞳

「お兄ちゃんの作文があるよ。」

と母が言ってきた。そして、一しよに作文を読んで見た。

兄の作文には、私が生まれる前のことが書いてあった。

兄が小学三年生の時、母が先生になって、命のじゆ業をした内容だった。おたまじゃくしのようなお父さんの命のもとと、たまごのようなお母さんの命のもとが、重なるとき奇せきが起きて、赤ちゃんができることや、体がどのようにできるかや、たいばんから栄養が送られることなどが書いてあった。

そして、兄のクラスの三年生みんなが、一人ずつおなかをさわって、みんなの顔がうれしそうだったことが書いてあった。

私は、作文を読んで感動した。まず、兄が私がおなかの中にいるときのことを書いてくれたからだ。

そして、兄のクラスのみんなが、私がおなかにいるときに、うれしそうにさわってくれたからだ。

母に、

「その時のこと覚えてる。」

と聞いてみた。母は、

「覚えてるよ。みんなが、袖瞳が入ってるおなかをやさしく、そおとさわってくれて『元気に生まれてきてね』『待ってるよ』って話しかけてくれたよ。」

と話してくれた。私を待ってくれる人がたくさんいてくれたことが、とてもうれしかった。

私が生まれたときのことを、聞いてみた。私が生まれるときは、おなか痛くなって病院にいったけれど、痛みがなくなったそうさ。だから、病院にあるマタニティービクスで、運動をしていると、急に痛みが来たそうさ。それから、あっという間に生

まれて、私の命はたん生した。

家族みんなが見守る中で、へその緒を父と兄が切ってくれた。私が生まれてすぐの写真を見せてもらった。父、母、兄、姉、祖父母、みんな笑顔でだいてくれた。

私は、写真を見て、何もなく無事に生まれて本当に良かった。幸せだと思った。

たくさんの人たちが、私の命のたん生を待ってくれたり、祝ってくれた。私は、自分の命を大切にしたいと思ったし、世界中の赤ちゃんや子どもの命を大切にしたいと思った。

私には、ゆめがある。歯科医だ。色々な人たちの歯をきれいにして、世界中の人たちの歯をきれいにしてよろこばせたい。

今、ウクライナでは、子どもたちが命のききにまわれている。戦争のないだれもが仲良くできる平和な世界になるようお願いしたい。

幸せにくらせる世界になりますように。

